

第1号議案

2018年度事業報告

2018年4月1日から2019年3月31日まで

NPO法人 ほっとねっと

1 事業報告

・障がいのある人への理解を推進し、障がいのある人の人権に配慮した街づくりを積極的に行うため、障がいのある人の主体性、選択性を尊重した以下の事業を実施した。

- ① 障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、介護サービス包括型共同生活援助事業・居宅介護事業・移動支援事業・訪問介護事業・介護予防訪問介護事業を実施した。
- ② 障がいのある人にやりがいのある仕事を提供できる場（就労継続支援B型事業）を運営し、地域住民との交流を図った。
- ③ 特定・一般相談支援事業所にて、地域移行・定着・計画相談の充実を図った。
- ④ 一人暮らしへの支援として、6月より自立生活援助事業を開始した。
- ⑤ 障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、共同生活支援事業を実施した。
- ⑥ 障がいのある人自らが事業の主体となり、自らが当たり前前に地域で自立した生活を営むために必要な事業や支援を行っていけるよう、ピア人材バンク事業を実施した。
- ⑦ エンディングサポート事業にて、（松山市宮鷲谷）墓地に墓碑の建立を行った。
- ⑧ 障がいのある方が、生き生きと生活していける場として、サロン事業を実施した。
- ⑨ その他
 - ・生活力推進事業運営委員会、ほっとレターの発行、職員研修、職員旅行、健康診断、職員との面談、国試対策講座、病院実習、職種別の研修等を実施した。
 - ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催。
その他、各種会議、研修会等へ参加した。
 - ・障がい者雇用が推進できるよう法人事業間で協議できる体制をとって感じた。
 - ・建築基準法の問題ですずらん1を移転した。

- ・理事会を奇数月の第三土曜日に5回開催した。
- ・冬季賞与時及び年度末に一時金として上乗せ支給を実施した。
- ・防犯、防火対策として各事業で必要な訓練等を実施した。
- ・協力医療機関の更新及び新規契約を行った。
- ・実地指導が、障害分野でくろーばー、自立生活援助、ほっとパートナー、口笛、ひだま里の5か所であった。

2 事業の実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	人数
障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業	介護サービス包括型共同生活援助事業(グループホーム)	通年	松山市内	25名	障がい者42名
	居宅介護事業	通年	松山市内	23名	障がい者64名
	就労継続支援B型事業(す)	通年	松山市内	14名	障がい者32名
	就労継続支援B型事業(ひ)	通年	松山市内	12名	障がい者28名
	就労継続支援B型事業(口)	通年	松山市内	10名	障がい者39名
	特定・一般相談支援事業	通年	松山市内	8名	障がい者78名
	自立生活援助事業	6月	松山市内	6名	障がい者6名
障害者自立支援法に基づく地域生活支援事業	移動支援事業	通年	松山市内	4名	障がい者19名
介護保険法等に基づく介護サービス事業	訪問介護事業・介護予防訪問介護事業	通年	松山市内	15名	障がい者16名
その他事業	共同生活支援事業	通年	松山市内	6名	障がい者10名
	ピア人材バンク事業	通年	松山市内	5名	障がい者・市民
	エンディングサポート事業	通年	松山市内	6名	ほっとねっと利用者・家族
	サロン事業	通年	松山市内	4名	障がい者・市民

第3号議案

2019年度事業計画（案）

2019年4月1日から2020年3月31日まで

NPO法人 ほっとねっと

1 事業実施の方針

- ・障がいのある人への理解を推進し、障がいのある人の人権に配慮した街づくりを積極的に行うため、精神障がいのある人の主体性、選択性を尊重した以下の事業を実施します。
- ・障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、介護サービス包括型共同生活援助事業・居宅介護事業・移動支援事業・訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・日常生活支援総合事業を実施します。
- ・障がいのある人にやりがいのある仕事を提供できる場（就労継続支援B型事業）を運営し、地域住民との交流を図ります。
- ・特定・一般相談支援事業にて、障がいのある方の地域生活支援の充実を図ります。
- ・一人暮らしへの移行を希望する方への支援として、自立生活援助事業を実施します。
- ・障がいのある人が充実した地域生活を行えるよう、共同生活支援事業を実施します。
- ・障がいのある人自らが事業の主体となり、自らが当たり前で地域で自立した生活を営むために必要な事業や支援を行っていきけるよう、ピア人材バンク事業を実施します。
- ・エンディングサポート事業について、利用希望者に対して契約等を行います。
- ・松山市から委託事業として、サロン事業を実施し、生活の豊かさを求めていきます。
- ・家族の集いを3回（7・12・3月）松山地区と北条地区にて開催します。
- ・生活力推進事業運営委員会、ほっとレターの発行、職員研修、健康診断、職員との面談、職種別（精神保健福祉士、介護福祉士・看護師）の研修等を実施します。
- ・利用者の思いを綴った回顧録の作成を今年度から行っていきます。
- ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催。その他、各種会議、研修会等へ参加します。
- ・理事会を奇数月の第三土曜日に開催予定。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	対象者
障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業	介護サービス包括型 共同生活援助事業 (グループホーム)	通年	松山市内	24名	障がい者
	居宅介護事業	通年	松山市内	19名	障がい者
	就労継続支援B型事業 (す)	通年	松山市内	12名	障がい者
	就労継続支援B型事業 (ひ)	通年	松山市内	13名	障がい者
	就労継続支援B型事業 (口)	通年	松山市内	9名	障がい者
	特定・一般相談支援事業	通年	松山市内	9名	障がい者
	自立生活援助事業	通年	松山市内	6名	障がい者
障害者自立支援法に基づく地域生活支援事業	移動支援事業	通年	松山市内	4名	障がい者
介護保険法等に基づく介護サービス事業	訪問介護事業・ 介護予防訪問介護事業・ 日常生活支援総合事業	通年	松山市内	15名	障がい者
その他	共同生活支援事業	通年	松山市内	6名	障がい者
	ピア人材バンク事業	通年	松山市内	5名	障がい者・市民
	エンディングサポート事業	通年	松山市内	6名	障がい者等
	サロン事業	通年	松山市内	4名	障がい者・市民
	回顧録作成委員会	通年	松山市内	10名	障がい者

ほっとねっと 2019年度の目標

1. 障がいのある人が、あたり前に生活していくことを支援しよう。
2. 周囲に配慮のできる人を育てよう。
3. 報連相ができる人を育てよう。
4. 自分で考え相談し、企画のできる人を育てよう。

◎ グループホーム（介護サービス包括型共同生活援助事業）

久米窪田事務所管内 ネットハウス「くろーばー」目標

1. 報連相のできる事業所になる。
2. 計画や業務を先延ばしにしない。
3. 事業所として関わっていることを意識する。

2018年度の課題

1. 企画・段取り・準備が遅いため、支援に支障をきたして利用者に迷惑をかけてしまった。
2. 具体的な支援を考えずに対応したり、スタッフ間で十分に話し合いができなかった。
3. 年齢等による疾患の重度化・重度の方の社会的入院の解消への検討が十分できなかった。
4. 一人暮らしをしたいという人に対しての支援の具体的方法を今後検討必要。
5. 研修の参加調整に偏りがあった。
6. 心肺停止時の対応が十分ではなかった。

2019年度の実施計画

- 1-①年間計画の行事や必要な事は2か月前に話し合い企画を立てる。
- 1-②企画の周知を月間計画や年間計画で把握して、期限を決めて対応。
- 1-③進捗を申し送り確認し、担当者・関係者にその都度報告を行う。
- 2-①グループを廃止し、全員が入居者に関わる。
- 2-②いずれかのサビ管が毎日出勤し、話し合えるようにする。
- 2-③1週間の勤務ベースを作成し、全員が出勤する日を作る。
- 2-④SSTの実践。
- 3 重度に対応できる施設の新設の検討。

- 4 サテライト型の新設を早めに検討して、実施。
- 5-①研修機会の少ない職員を優先して勤務を調整する。
- 6-①各ホームへAEDを設置。
- 6-②職員と利用者に対して、AEDの使い方の練習。

北条事務所管内 ネットハウス「くろーばー」目標

1. ひとりひとりに丁寧に関わり、希望に沿った支援を実現する。
2. 先送りせず、相談し共有する。
3. 予定や情報を共有し、効率よく支援を行う。

2018年度の課題

1. 入居者への関りが、感覚で支援している感じがある。
2. 入居者の生活の質は本当に向上されていたかのか、不安。
3. 内科疾患の増加と、それに伴う時間的拘束が増えている。

2019年度の実施計画

- 1-①アセスメント・モニタリング等、基本的なところをきちんと確実に行う。
- 1-②何のために、なぜ今この支援を行うのかを日々確認・検討していく。
- 2-①エンディングや単身生活についてなど、計画的に立て支援していく。
- 2-②午後グループホームにいる方と過ごす時間を増やす。
- 2-③ご家族ごとに、関わりの方法を見直していく。(会いに行く、動画を送るなど)
- 2-④SSTの実践。
- 3-①申し送りとミーティング、それぞれの内容ややり方を再検討する。
- 3-②受診同行の時間的負担が減るよう、受診時間や曜日の再調整をして業務を組む。

◎ 就労継続支援B型事業

すけっと工房目標

1. 個別ケースでその人の望む目標を立て支援を行う。
2. ひとりで抱えず職員、メンバーを巻き込み相談をして考えていく。
3. 個々で責任を持ち、計画的に動けるようにする。

2018年度の課題

1. 授産について整理する。
2. 新規メンバーの増加ができるように支援力を高める。
3. 段取りが遅くまた明確でないため、レクリエーションやケースについての対応が遅い。

2019年度の実施計画

- 1-①定期作業について、施設外就労の加算を取っているが職員・メンバーによっては、入れなかったりメンバーが少ない日に作業が多い日があり再編成が必要。
- 1-②採算の合わない作業はやめる。喫茶は単発の貸切やOT活動等の場合のみ実施。売店については売店担当者と今後について協議してすすめる。
- 1-③内職は、人数を絞っての参加でいずれは辞める。また自主製品に伴った内職を実施。
- 1-④所内作業については、アルミ缶、新聞をまず法人内で案内を出して回収。
- 1-⑤移動喫茶については、イベント出店、協力してもらえる病院へ営業活動。
- 2-①新規メンバーが入ってきやすい授産の検討と営業活動を引き続き行っていく。
- 2-②自主製品の開発、米粉などを使ってクッキー、だんご等を作り販売。営業許可。
- 3-①個別ケースを重視し、その人の望むべき目標を立て段取りを組み支援する。
- 3-②行事、レクなどは2ヶ月以上前から計画をしていく
- 3-③年間の計画を立て、担当者が責任を持ってあたるようにする。

ひだま里目標

1. 利用者の方の強みや、やる気を引き出し反映できる個別支援を行う。
2. ミーティングの重要性を理解し、普段から自分の意見をもって相談できるようになる。
3. 北条地域のイベントに参加し地域や関係機関との連携を深める。

2018年度の課題

1. 開所日を週6日とし、新規利用者の受け入れ等に努めたが、土曜日の利用者増加にはつながらなかった。新規の利用者の案内の検討と土曜日の開所内容の見直し等が必要。
2. 情報伝達にずれがあるなど、ミーティングのやり方や内容の見直しが必要。
3. 地域交流を今後具体的に進めていくための方法が必要。

2019年度の実施計画

- 1-①新規利用者の受け入れ強化のため、和ホスピタル等のデイケアへのアプローチを行なう。
- 1-②ワンステップ事業が活用できるように、ケーキ作りの体験などの企画を提案。
- 1-③土曜日開所の目的と魅力について整理し、内容を検討していく。
- 2-①ミーティングの重要性を理解し、参加できるよう勤務調整や、各自の業務調整をする。
- 2-②事例検討のやり方を、工夫し支援にしっかり反映できるようにする。
- 2-③お互いが活動や支援のあり方を意識できるよう必ず発言する。
- 3-①地域のイベント等へ積極的な参加ができるよう業務の調整を行なう。
- 3-②病院内の活動、SST やパラレルに積極的に参加する。
- 3-③地域イベントに参加し、地域連携でどのような事が出来るのか整理する。

口笛目標

- 1. 利用者の方々の思いや希望が表現できて、個別支援計画に反映し、実現する。
- 2. 自分の役割に責任を持ち、目的を理解して支援をする。
- 3. 中島との交流を通して地域貢献していく。

2018年度の課題

- 1. 安定した授産収入が得られる取り組みが必要。
- 2. 個別に応じて就労支援ができるようになる力をスタッフが身につけていくことが必要。
- 3. 目的や自分の役割を理解し、計画的に行動できるようになる力が必要。

2019年度の実施計画

- 1-①食品衛生、品質管理を職員、利用者とも意識し徹底する。
- 1-②利用者と共に各作業チームで目標を立て、具体的な計画を立てる。
- 1-③具体的な計画を実行し、定期的に振り返り、早めに改善策を立てる。
- 1-④原価を見直し、販売価格、価格変更時期の検討をする。
- 1-⑤腎臓病治療中の人も食べられるパンの商品開発をする。
- 2-①就労支援ができるように職員が知識や技術を持ち支援できる力を付ける。
- 2-②個別に応じて必要な人には就労にむけた作業内容や支援を提供する。

3—①担当者は口笛として担っていることを意識し、全体に伝わるように伝える。

3—②年間予定をもとにいつから何を準備するのか考え、計画的に実施できる。

◎ 居宅介護・訪問介護・介護予防・移動支援・日常生活支援総合関係

ヘルパーステーションほっとパートナー目標

1. 利用者の方々の支援内容を把握する。
2. 必要性を見出し、関連機関との連携を図る。
3. 登録ヘルパーの方々とコミュニケーションを図り、情報収集を行う。
4. 職員間での報連相を大事にする。

2018年度の課題

1. 業務分担が明確になっていない。
2. 支援に追われて十分にスタッフ間で話す時間が取れていなかった。
3. 新規の利用が増えるとヘルパーの高齢化もあり受け入れが難しくなっている。

2019年度の実施計画

- 1 仕事の効率化を図り、体制を整える。事務業務の簡素化を図り、時間を有効に使う。
- 2 事業所との連絡報告を充実させていく。
- 3 ヘルパーの確保に努める。障害者雇用についても推進していく。

◎ 相談支援事業（自立生活援助事業を含む）

相談支援事業所ほっとねっと目標

1. スタッフ間の情報共有に努める。
2. 関係機関との定期的なカンファの実施をしていこう。
3. 地域移行を進めていこう。

2018年度の課題

1. 介護保険へ移行する方も増加し、一貫した支援ができる体制も必要。
2. 定期的に専門員だけで集まってケース検討をしていく場が必要。
3. 関係機関が果たすべき役割をケースの状況によって具体的に確認していく機会が必要。

4. エンディング事業とどう連携していくか、今後も検討し推進していく。
5. 自立生活援助事業のサビ管の確保、地域生活支援員の確保が必要。

2019年度の実施計画

- 1-①久米地区の会議の充実のために事例検討や交流
- 1-②高齢障害者の課題の整理
- 2-①毎月1回専門員で集まる機会(相談会議)を持つ。
- 2-②個々の専門員の課題を出してもらう。
- 3 関係機関との連絡会の実施。
- 4-①エンディングサポート事業との連動も考えて相談会議で検討する。
- 4-②そのために65歳を迎える人のケースを抽出しておく。
- 5-①継続した支援ができるように地域定着との連動も考えていく。
- 5-②サビ管の研修に参加する。
- 5-③新規については、吟味して増やしていきたい。

◎ 共同生活支援事業

ひまわり・大目標

1. 協力関係機関との連携を強化する。
2. 支援会議と連絡会の充実を図る。

2018年度の課題

1. 人手不足をどう補っていくか。
2. ミーティングとの違いが判らないので、支援会議の内容や回数の変更が必要。
3. 病院との連携で必要時の個別への対応が十分でない。
4. 食事会の役割分担を検討。

2019年度の実施計画

- 1 募集を的確にしていく、また各事業所の協力を得る。
- 2 共同住居支援会議を年2回各共同住居で実施。共同住居連絡会を年2回実施(全体で)。
- 3 各事務所、相談、病院等関係機関へその都度報告相談等を実施する。

4 食事会などのイベントを、大は真光園へ、ひまわりは久米病院へ依頼していきたい。

◎ ピア人材バンク事業

- ・ふれあいトーク事業を3回（6．9．12月）開催し、利用者の方が知りたい内容を中心に、学習できる場を作ります。
- ・年2回（6月．3月）ピアサポーター意見交換会を開催する。県外視察を行い、その報告会も行う。
- ・ピアサポーター、講師派遣事業を推進する。ほっとねっとピアサポーター45名。
松山市ピアサポーター登録者18名。

◎ エンディングサポート事業

- ・委員会を年4回（5．8．11．2月）開催し、個別契約のための手続等を実施していく。

◎ サロン事業

- ・松山市からの委託事業として、小坂地区と中島地区にて開催する。

◎ 生活力推進事業運営委員会

- ・委員会を年4回（5．8．11．2月）開催する。
- ・利用者から各事業に対し、要望を出してもらい運営会議等で話し合い改善していく。

◎ その他

- ・家族の集いを3回（7・12・3月）松山地区と北条地区にて開催します。
- ・回顧録作成委員会を開催し、利用者の思いを綴った書物を作成していきます。
- ・ほっとねっと職員研修を3回（6．9．1月）開催する。今年も、職種別の研修を精神保健福祉士、介護福祉士・看護師で実施する。
- ・各事業にて職員会議、利用者ミーティングの実施、事業全体の運営会議を毎月開催し、その他各種会議、研修会等へも参加する。

(2) 法人関係

- ・理事会を奇数月の第三土曜日に開催する。
- ・働きやすい環境づくりのために、職員に対して個別面談を実施する。
- ・処遇改善に伴う通知を職員に伝達する。
- ・ほっとレターを年4回発行する。
- ・健康診断を年1回実施する。
- ・関係機関との会議等に法人として必要に応じ参加する。